

Title	ナポレオン父子の合葬
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1941
Jtitle	史学 Vol.20, No.1 (1941. 7) ,p.70- 70
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19410700-0070

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ナポレオン父子の合葬

一八二一年五月五日大西洋上の孤島セント・ヘレナに波瀾多き生涯の幕を閉じたナポレオン一世の遺骨が、その遺言に希望され
た通り、一八四〇年パリのオテル・デ・ザンヴァアリード(舊廢兵院)の堂宇の中に移されてから、昨年は丁度一百年に相當するので
記念の祝祭が準備せられてゐたところ、その兒ライヒスタット公の遺骨もまた父の墳墓の傍に合祀せられた由である。

ナポレオン一世の獨り息子のナポレオン・フランソア・ジョゼフ・シャル・ボナパルトは、一八一一年三月二十日パリに生れ、
ローマ王の稱號を與へられて父帝の寵愛を受けてゐたが、彼は一八一四年父帝の退位の際、母皇マリヤ・ルイザに伴はれてウイ
ンに赴き、奥國の王子として養育せられた。母皇は一八一五年にバルマ公爵領を保有することになつたけれども彼がその後嗣たる
ことは認められず、一八一八年に煥帝からライヒスタット公に任ぜられたが、ナポレオン黨の間では、帝位に登らないのに、ナポ
レオン二世で通つてゐた。幸運に恵まれなかつた彼は一八三二年數へ年二十二歳で死亡し、ハプスブルグ家のカプシン修道院の中
に葬られてゐたのである。彼がエドモン・ロスタンの有名な劇『エーダロン』(鷲の子)の主人公であることは周知の如くである。
昨年(一九四〇)十二月十八日附ロンドン・タイムス週刊はその光景を左の如くに報じてゐる。

十二月十五日(日曜日)午前一時過ぎ、砲車に載せられた棺は、ウイーンからそれを停車場に於て受取つた一隊のドイツ兵士に護
衛せられてアンヴァアリードに到着した。炬火を携へ正装したるフランスの憲兵隊はフランスのダルラン提督、ロール將軍、ド・ラ
ロランシー將軍及び數名の高等官と共にこれをその中庭に待ち受けてゐた。

ドイツのフォン・シャウムブルグ中將、獨軍パリ司令官、その他のドイツ官吏達と共に中庭の外部に立並んでゐたドイツのアー
ツ大使にこの棺が渡され、それをドイツ兵士は昇いで中庭に運び、大使は次の如き言葉を以てこれをフランス兵に交付した。

『總統(ヒットラー)は、ナポレオンの遺骨をパリに移したる丁度百年祭の機會に於て、その兒、ライヒスタット公がその側近に
埋葬せらるべきこと、且つウイーンからパリに移送されることに決定してゐたのであります。私は總統に代つてライヒスタット公
の棺をフランスの代表者にお渡しすることを光榮とするものであります』と。

大鼓を打ち鳴らしつゝある間に、棺は炬火持を伴へるフランス憲兵によつて堂宇の中に運ばれて、フランスの徽章を以て飾られ
た祭壇の前に安置せられた。次いで僱侶によつて祈禱が行はれた、と。(間崎万里)